



野寺小だより

たんぽぽのように やさしく つよく のびのびと

～ 家庭・地域とともに一人一人が輝く野寺小学校 ～

学校教育目標

- ・よく聴き、よく考える子
- ・心のゆたかな子
- ・からだのじょうぶな子

児童数 702名

10月号 令和4年10月3日

学びの土台となる力

校長 保戸田雅之

季節は秋本番を迎え、「スポーツの秋」「読書の秋」「食欲の秋」というように、何をするにもよい気候となってきました。子供たちには、様々なことにチャレンジして成長するチャンスにしてもらいたいです。

さて、「非認知能力」という言葉を耳にしたことがあるでしょうか。テストなどで数値化できない能力のことで、物事をやり抜くねばり強さや自分の感情をコントロールする力、計画をたてて実行する力などが含まれ、自分の力で生きていくために大切な能力です。

例えば、意欲、協調性、粘り強さ、忍耐力、計画性、自制心、創造性、コミュニケーション能力などは、学ぶ土台となる力です。すぐに成績には表れないかもしれませんが、将来に必ず役立つものです。野寺小を含む新座市内のいくつかの小学校では、4～6年生を対象に、「非認知能力」を向上させるための学習プログラム「こころアップタイム」に取り組んでいます。ワークシートや友達との意見交換などをおして、気持ちのコントロールの仕方やコミュニケーションスキルなどを学んでいきます。

この非認知能力は、主に学校生活で育まれると思いますが、家庭でも次のようなことを心がけると良いそうです。

子供の好奇心を尊重する

誰でも好きなことなら意欲的に取り組み、根気強く続けられるものです。

子供の好奇心を尊重してあげることで、チャレンジする気持ちが育ったり、工夫することを覚えたりします。

子供の気持ちに共感する

嬉しいときは一緒に喜び、失敗したときは共に落ち込んであげてください。

自分の気持ちを受け入れてもらえたことで、ますます意欲が湧いたり、自分で気持ちに折り

合いをつけて立ち直ったりできる力がつくそうです。さらには、友達の気持ちに寄り添うこともできるようになってきます。

愛情を注ぐ

親から愛されていると感じることで、安心感や信頼感が育まれて、自己肯定感が身につきます。そして、物事に対してポジティブに取り組む力になるのです。

また、自信があると心に余裕を持つことができ、コミュニケーションを上手く進めることができるようになります。



変化の激しいこれからの時代においては、「テストで〇〇点取れた」というような認知能力だけでは対応できません。状況を見極め、課題を見つけて、自分で考えて行動する、「非認知能力」が求められているのです。

一步前へ踏み出す勇氣

9月21日(水)22日(木)、一泊二日で6年生が修学旅行に行ってきました。直前の台風もあり、雨男の私としては天気が心配でしたが、一度も雨具を使うことなく全員参加で全日程を終えました。

二日目の午後に訪れた「東武ワールドスクウェア」では、自ら選んだ世界の建造物について初対面の人に解説をする「ガイドツアー」を経験しました。見ず知らずの人に、「少しお時間いただけますか」と声をかけるのは、とても勇氣がいることです。野寺っ子の誇りを胸に一步前に踏み出す6年生の姿に胸が熱くなりました。

